

NODAK COLOR CONTROL PASTES

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



嵐女集

川

特別
~5
1534
3



利
1534
3



崑山集卷之三之上目錄

返回

去鳥

去雁

燒野

小朱花

茶摘

若點

尚代

雲雀

維子

沉了花

木瓜花

蛭

莖

胡蝶

巳日積

三月三日

永日

藤

三ヶ所念佛

離去

善春

紫苑

桃

曲水

躑躅

春菜

御身拭

春那云

其山集卷之三

春部

返田付苗代

粟水の苗代為とて先子より那

志のや賤なるくしと田つ地

志のよひのくしとてん地は

秋さやふと田つたうら甲

ふとふとふとわとくくめう田家

わとふと田つたや賤の神

春部

康耳

掛也

森初兵

綴系秋

取寄川野

昌漢

安部

花水や身あつらふは書物と
種々のよみそくは田舎の

増橋井

貞吉

皆

角

春鳥

鶯は肉て金さくくや籠ひる
啼つゝ家求るまじやじら雀
はしつらゝ鳥さう竿やあけ
楊中や巢へつゝ鳥方雀
子鳥は乞ふも森はとくら

坂

夕暮

鳴おも親のくくやめあ子

日

陽侍海丸

晴孝

子じんと巢や雀らるじら親鳥

折句皆冠折端の梅

沙りかきまきや巢ちのひ雀
鳥は子たそ雀つゝ十や百子鳥
鳴るや園て王母の百千鳥
ちのたさるみそくさくまの物
年の矢の羽や鳴るる鳥

新川

玄槌

中冷

永吉

三田中村市

玄吉

純州新川

道恒

ち夜

海成

妻の恋

登つよの伊とを継尾は鶴と
羽翫や出ると居るもあらうり
此

雛子

かみくくも海をからる雛子骨
まんと伊とを近付を雛子の恋
あ母羽とまをせむる雛子賢さ
よのほく雛焼とたわ焼おと那

雛子のあてからると此と雛子
雛子たのめんはそ向く雛子
子いふとせつはなけは雛子
まといは雛と蛇あ〜ふ
殿の雛もまんとけお雛の恋
子はほく雛子のあてからる
春
高よりあ
まのうとたわを田は雛子の恋
月

季吟

月

時の下ふ子ばやうま屋のこ雉子 信田 政信

とみろあたまきくすし成焼野武 円

大お野のりま焼野雉子武 保友

まんとまんと焼あうらぬ雉子ふ 信 康年

深ゆくま雉子のまんけいけい 信田 後屋

取のまじりま山まを雉子のま 中野内信忠 貞宣

雉子うらうら打いまんらう地震 円

まんとまんと焼いまらし地獄石 一原 友成

雉子帆鳴や乾坤の箱根山 小瀬信 利村

おまらぬ雉子やまらうらぬ海 野之無葉 為貞

雉そ二羽うらうらま 信水 不存

野まも母も成をけいと成も成 信 政信

雉ま子成わくわくころ焼野武 信 無死

まんと子路と路して少と 信 此

まんと雉子あかひそ大のま 信 円

まんと雉子あかひそ大のま 信 円

焼野

妻の香もやまとう時山と焼野

下前山もやまとう時山と焼野

高き山もやまとう時山と焼野

物火もももさう世もさうや

焼野もももさう世もさうや

沈下花

妻の白てあまきう白ひ沈下花

二つ目もあまきう花やう香沈下花

うらうら枕の上も沈下花

繪よ白ひゆとまも沈下花

あまきう花もまも沈下花

袖口もももさう世もさうや

小糸花

わらわらうのうからわ小糸花の白

賣らうのうからわ小糸花の白

片相

彦保

右取

安助

信田

政信

此所

貞長

三割

宗時

尾清

末得

此所

好道

敬とけつふ木の花やひまふ
野色
秋政

木仏花

きくひての流やあまひまふ
折ふ袖か花とちの地をけ

茶摘

ちの木の目かまもあつら茶
ま摘み伊りたて摘み茶
う治山のまきん秋集茶摘み

橋一茶とあやねまきん茶

茶とほしゆりあふの初け

ほろあまもりあゆのねま茶

鼻紙まじりたて茶

大かろあふも茶

そりくやま茶

うくお摘茶の本やまきん茶

ひろあふ茶摘茶のじり

野色

秋政

豊

友三

以

未得

日

宇治ぬつろ方あく七葉を摘てか

坊林村の巻

有信

極母をとりたけぬ紙撰じ葉摘りか

世色

神政

鼻の穴わくはきき葉やまをうた

る歌

元晴

葉の乳摘りかお葉のゆいけか

おはけ田葉時

道多

蛙

立日らり鳴や蛙の奇あをる方

鶯と蛙のあうや奇あをるせ

軍場へはくたけ坊さや川蛙

老代とまじり蛙の軍りか

お水乃流りこり伊をく鳴りか

軍りも男こも坊くあをる方

為の玉流りかよ上るやあま蛙

かけ田から蛙乃奇やあからほ

奇袋つこ袋もあままらんか

軍場の時乃あうるやかく蛙

とのりあまき道心りあをる方

池の田母又野の...
讀奇の...
仙人やて...
水口母地や...
奇軍文...
今讀も古奇...
堀川の百首...

堀川の...
始まり...
奇...
山の丹...
奇...
合戦...
水神...
歌...

三
利政
元親
政信
盛康
孝吟

軍よひまきうらむよひまきうらむ
晶月

浪の鼓うらむ鱈の軍うらむ
貞好

海らひらぬ味うらむ氷の河鱈
梅盛

きりりあそふ鱈うらむ子そそむ
去得

舟とあんこらうらむ鱈の波枕
良深

舟と捨とせしむらうらむ鱈
月

わらわらち海うらむ心のとほ義
友直

氷軍うらむとまきこらうらむ
月

うらむ物の舟うらむ小田舟うらむと
晴之

寺の池よとまきこらうらむ鱈
正成

二心うらむとまきこらうらむ舟
良和

月舟うらむとまき天の舟うらむ
重紀

氷うらむとまきうらむ出心うらむ
直昌

わらわらとまきと舟うらむ鱈
每延

舟と心うらむとまきうらむ鱈
保友

金葉の舟うらむとまきうらむ
月

私として鳴や蛙のふかた

日

蛙の子おやたこう面志高

長

地母のすれひくくもろやと

身

地を奇と腹は味もふ蛙の卵

心

雲の奇つ雲井のあま鳴蛙

足

能固うあてうとろあまの

負

奇續て行へた王のあま

夜

ちこりてともふ新色さ

負

尼のちちるや詩子の紙登川

川

奇念佛のせまふひれ尼蛙

蛙

奇の流る小野の小野田

夕

ちちりてゆやう池田の

会

流のあや花顔のあま

主

浄土宗のあま

し

地をくくいけ奇蹟や花蛙

政

苗代の白もやかゝの軍林

重

三三

海を渡る人の目くらや危蛙 福井 清之
鳴蛙軍談をくや夫と手川 尾川 友我

清水寺にて

清なるてのわくらと此危か 中井 忠幸

只の子に餓鬼も人殺の軍 安部

時とゆはつたり友とた蛙 信田 政信

さやうらうらぬるめん此より 正伯

子孫をじいさういふ身や危 末次

浪のわやそりくつと此危蛙 良徳

女男もや淡儀坊主とわら蛙 長瀬

志やくも此母のしんあそ 川

若の若おま 川

若鮎

石の上をころへ鮎のみせが

氷のちら川の流もよふ子鮎が 多成

うらまへと真りの雨らも

ぬのうやわさひつたのつな董中 貞直

写んき繪がしゆ多しのとくの 董林

久かみわつしゆとつけ董董也 秋葉

ゆり花の糸を蝶乃とみ目尾羽 正貞

やういふとあてた小野の董董 盛行

かきそはけりつふりたの董董 竜也

まの好系焼のやまの董董董 月

花のほこしつひよち董董董董 信介

余の花みちふはちと董董董 春時

花の雨意はぬくの董董江 実名

花の糸やわらぬちうの董董江 林麻

ほや繻子一のつふとみ目ち 保友

蝶のよれ省野や蜻の董董長 長光

よのほしつひ花がまの董董月 月

友花と花さる蝶や友ちう人

蝶

去の野を胡蝶の舞は芝居が
 花乃おや胡蝶の舞や扇拂の
 縁の下は舞うや遊女花さふ
 ほきりハ二人勢の蝶の舞
 物たり丹目三舞とらこころお
 舞の及和方とめをた蝶お
 は来乃舞まふ遊女のこころお
 うまひ花中一ツ花蝶や片目お

の目おたむの舞はあつこころお
 花の風さとしあつた蝶の舞
 遊女今朝集りてころや夏合
 吹ひ舞もてふよ付らあけお
 舞ふ蝶お花とあやゆらあの中
 美人こころをのまうあは格うお
 花のおよあつひしてわらや舞蝶
 遊蝶のちよやさあう舞お

親いあつまふらいつけぬ胡蝶が
 猶のまはさるゝふもや嵐疾
 そひくふ胡蝶や蝶の家は紋
 有る中みちいさき蝶や思の舞
 聖人もさうや胡蝶の夏は舞
 楊戸舟二足舟らわさふつらひ
 露くゆい果敢の花は花胡蝶
 一花や胡蝶の舞のともやけし

花の中み入りやまゆゆく蝶の舞
 咲花の中入らわさふのまひ
 花よもさしは舟も舞ふ蝶やさうあ
 寺はなほさふも蝶きみゆりの花
 ころあのは舟舟付虫いこさうか
 鉄仙の蝶やうらうら舞の曲
 らく花中はけらさきの舞乃胡蝶が
 親い何とさう老葉子舞ふさう

野は丸舞
高田康徳集
二坂仁
保友
重因
本山吾馬
重因

焼野てい薪の結う蝶の輝

後大森

勝能

表目せびめらる小蝶や大和輝

紀州高野

政直

床の内へ死来る蝶やなむ輝

定室

本乃母と鳥つひまらる小蝶か

大板江

実安

夏とみる蝶は又四睡り那

兼心夫

昌喬

雲ふ似てちまらる蝶や白拍子

中西市三郎

三次

鳥花霞す合つてふくもる仙

曰

たうがさいせもんの内う蝶の輝

何内友并ノ位

表寛

蝶のわら相の本枕や庭わり

春名を田舎

吉昌

命をうつ蝶も又のらる多蝶

紀州高野

時正

とすのわら蝶は舞蝶かひらさ

元与

とくすひのわら蝶は天女うら

尾羽長崎

波友

巢かつと蝶輝もすう胡蝶か

大板江

貞貞

花のけぬもとやめけの終る蝶

柳方里

俊屋

夏振輝の野けの苗屋

野むしへ夏振輝のそふか

春名を田舎

長光

眠るはるも今やうあうはこて我 去夜交うる集
友ははるの蝶乃寐りやせいの時 友 悦去
窓のあはきんしの寐る花胡蝶 日 若時

蝶と猫の縁はあや

寐蝶のともや猫のの解り 此の行る集 時心
花のあは寝つと寐ともやう胡 南市郎太 一室
恋とてふはあ寐えるる友中か 梅根 忠久
花蝶は春く出の花のたこ 三原 梅盛

えりあひも寐よや七賢花胡 蝶 不お
花か今朝多想ひひきま蝶の 蝶 長調凡
玉かこれあみまふ蝶や道はの 同
蝶つらひすくふい二人志の我 同
花かひら蝶やあまいう二福を 同
花か春胡蝶はあ方野好か 同
あは花やこてよのあはれ百年の 同
普通の場合

あけぼののつばき花もさかす

有情のふとよ下あましく

中あ非情のみ紙入てま

の匂あらしのんあらしん

蝶よりいしゆあらしや蝶の舞

口

丸

今日極

えあふぬ美うまのひ乃御後

極

花乃名を極のあひささる香

白あまはらうとひのあ極の花

手あらんこもくありあがら花は

吹らうたやま風多うりてん

朝日あへ東方ほや園の極

ほみはあく牛のよなきの桃の

み信

咲桃や錦木と云じ三年の季吟

大内みよるも花のりよん木江戶康年

仙洞半信嘆りまゝれもか場江安之

桃鹿の志と急やわさる花盛成方

桃ひさし木枝さ初め花ころ紅州高定守

はるさし二重半ゆさかほ桃の枝定時

まこれ花一つ見らるもはけりま吉通吉

馬のふまこころはあ桃の花中務貞重

八重二重開き桃花の九枝花江三願

桃枝奇光も百人一箇花江ま久

伊の桃乃花やまなとぬは是花江定房

桃枝花を過へるも色百花とい尾州一系友我

かあしたる木やうく桃の花盛奉志村花江守業

三まきはゆく由や花の桃は皮尾州長安周次

桃枝花を友やわさるれ子孫んめ尾州長安合次

蝶を此寐やうらんちよ桃の花尾州長安不盛

桃の花を以て功ひゆらばその母の壽

伊丹野

重紀

花の香もいとけつらあらむ桃の花

清和七年

正伯

流るる牛乳もその本なきや好人の

京中川

正伯

礫母そ花の鳥くそとむり

桃

長秋

桃の花の多や小町のあざさる

同

仙人のひやくなきや桃の花

同

三ふとせはまこりや桃の花

同

桃園の虫も成てもささるる

同

百歳母がかりて桃の花

同

身兼ふかたなりとならぬ

同

三月三日 付桃酒

同

あけお花柳の酒やゆり花

桃の酒も今日は開きつつか

まやうら智恵の深きは蓬餅

桃の酒や二日へささるる

桃の酒のりこりくふふ

季吟

桃李物いふふ今りの花は

定之

唐蕙乃ころ桃の酒くじ三々白

正忠

御礼の鳥合もろ節はく那

治時

餅をふりりころ思もまき

好之

多の餅をこねてく前を餅

重紀

舟並ひもろや三月三日の月

政矩

ちまろえん桃の葉打らや系此餅

貴人

月をいそぎまは坂くいのき合

定邦

三月廿八日公事まはら桃は

直心

わいの苑ちりくを八市一きり

鼎月

りともかろくろの母桃の酒

夕翁

酔とぶゆんちや粧女桃はきけ

菊亭

唯と今日百盞いりの桃のさけ

良保

海をそくかきもやうけ桃の酒

一貞

三千年おだろ鈍子の桃は酒

尚心

ふれつまるくうゆら桃の泥の取

盛庸

ちきりすくいとくやうの草餅

長調

曲水

ちきり地をたきく曲水はなんさか

鹿嶋の森村久々
若河

曲水はなんさかのころかきつ

奥の
友三

奇やとし曲水はなんさか

幸久保
條量

日一といふ曲水の露の那

大坂
好道

えいさぬいこうして曲水は曲り

尾湯
三喜盛

曲水の角魚の三ヶ月

珍重

曲水はなんさか

長調
母

永日

まんがなまの永日

おさかしの永日

高野

永き日お詠國一見幸都

天う下舟のくつ永日

永き日を感へすまの夜か

海山とちいけて永さ日
佐保唯へらくつりまは日わ子計
んも口を形く成り新法脚

醍醐くそ聖賢考脚の叙評

たいまんと永き日つれまは

岩林いちらつるまは日くワル

まはりの氣ハ半のあまう外

道家まよりふてもい道家の薬

通長

信長

信貞

吉也

自志らんおまは永き此氣

まのりの氣まきともやうん紙

躰躰

花よりまはたんあそ唯いを

ゆらなまはつらもくもらつ

おんの小袖乃あんなつ

うらまはむもつらもり解

切くや大てまきらくはたの枝

新法脚考評

正徳

忠久

おみ家の実後、の社壇のほに、
野中も、孝道、の餅、
盛つ、さくらも、さくら餅、
はげや、花大、改、の餅、
花わ、と、おみ、つ、も、ら、
さ、おみ、妙、清、蓮、花、
さ、おみ、さ、ら、清、蓮、花、
お、おみ、さ、ら、清、蓮、花、
お、おみ、さ、ら、清、蓮、花、

鉄炮のさくら餅、
鉄炮のさくら餅、
茶の子、わ、お、
根、お、
ひ、
は、
お、
お、

山頭のはくや野のきりり
笑ふよと包ひてくもえん
まのめ候へた火のつどか
ちいんん念力とて思ひ
みと申さるは心なるも思
折とりしんも根かきし餅也
風のよからんも思ひ思ひ
さすかきしんも思ひ思ひ

信元
政次
玄徳

いんんも年々らと思ひ
候得物ももふあめの元思
肩とけぬ候のりも思
まて思もわりの罪科の思
佛のたよる蓮花法どか
神ちみよ思ひ思ひ餅
沈きさるる人も思ひ
枝のたたらつたの思

信元
政次
玄徳
信元
政次
玄徳
信元
政次
玄徳
信元
政次
玄徳

松籠たわ刀の毛をさる餅作 各 夕影

松籠たわ刀の毛をさる餅作 各 夕影

さけし侍のち譲之焼壇の柳 幸の松 一治

詩池うみきんあうるめんは 後蓮詩 深長

舟と云うけりぬるをくつてさ 一原 在教

てきちちくや羊たわもさ花の風 水音 正重

あなをいふてきちちくは 池田 長

笑あめりてふらゆのり 長 長

ねももいせと賽のほにか 同

孫らゆいさ刀もたのら 同

竹の筒舟入ふと苗産

花入もめい舟のついか 同

はなれちち赤小豆乃餅作 同

とれの枝とさうのせつ 同

ひと者乃あさきたか 同

火のたうのいりやま 同

友

友らふい花みさくの茶は
友華乃花いんくとりはる
田方此の地母のつちあう
る鳩乃松母のらや波の平
昨松のさくらも友は花う
おきいとなしり同もさ
松のほろ花さきとさうり

四 四

花くの御はの跡めさう
大はもさるも房は花の
友らんとわいと関うら
屋原のさくはまうら
友とみく屋はさうら
友渡のさくはらはら
まはめめめめめめめ
おくせいせいせいせい

三十一

咲ぬハ梅道さくら田子此浦

过

正朝

風どくしき雲ふら渡りさくら友

細おゆ木

後次

行りぬ甲斐さきり有れりふ

正河高徳

後時

水巴の字ぬいもや有れ花の浪

有者

正賢

ときたつとさくら有原むの棚

有者

貞利

友の花つかなの比やさくら棚

有者

重貞

花やさしきまらぬ友の棚心

有者

貞好

咲ぬ花梅さくら田子此浦

有者

貞好

二まこの松と友の門はら

有者

貞好

松母なるや位者の市れふか

有者

貞好

表をてかくもれ友の花乃歌

有者

貞好

三尺の花の有海のはらさ

有者

貞好

寐入花の長き盛もや有れ友

有者

貞好

花はいてまらぬ松の有るか

有者

貞好

是門の花もや三里さくら友

有者

貞好

表さ母のまらぬさくら友

有者

貞好

短冊とほしきよな波のちるり 夜 夕

棚とこにけぬ波や天河 喜 道

花影よなむる水や波の浪 正徳 好過

神木や咲なほるやうの繩 正徳 方淑

松のふしのいせもまやなれば浪 正徳 林麻

なやまつくうういふ波もゆる浪 正徳 次良

天津風と悲てなむさうら松 正徳 長發

竹母あらしうくも波のすら 正徳 同

雲は肩あかしたまきやなう 正徳 同

水のぬくふとそくを鬼う 正徳 同

まゝえや人のほくさるな棚 正徳 同

かゝぬこれ花遊人となう 正徳 同

海目のちたうなははとまう 正徳 同

指入る枝も志さう此花籠 正徳 九

春奈付 三ヶ本念佛 正徳 三瀬

正徳

十日のあまやとくくく 花成盛

俣右

正候

ちんちんや母とくく 花成盛の大念仏

虎前八集

元辰

子午の花のかんけりでも 念仏

中つ集

長六

残たえし 念仏

長駒

御身拭

釈迦の徳さし 念仏

拭

御身拭 念仏

念

政信

御身拭 念仏

念

重右

御身拭 念仏

知是

雑喜

万年とらふ 念仏

正候もかく 念仏

後とらふ 念仏

恒乃江の八葉や 念仏

恒右

境は今日あ 念仏

かぬさうりーまゆ近江のよき様

河

まぶ部云

鶯乃子あ〜まさけ部云

まぶもけりのまぶ部云

来ぬ夏のさちうひるま部

あめと約まそふり部云

まぶ城あ〜まぶ部

うゆあ〜まぶ部云

中願寺准上人十三年

三月成のり部云

あ〜まぶ部

まぶのらんからまぶ部

萬春

永き日〜まぶ部

ちとらんあ〜まぶ部

まぶ部三月あ〜まぶ部

マナ

花鳥の喜ばるるや鳴鶴のり
 ありつるや喜ばるるや鳴鶴のり
 今日の花鳥のりや鳴鶴のり
 喜ばるるや鳴鶴のり
 伊わらちよ来てくまも三朝
 能乃酒香のりや鳴鶴のり
 一森かそこのや喜ばるるや
 今日御返さんらあんを喜の

鳴鶴
 水也
 喜ばる
 清之
 敬候者固々
 後則

